

題 火災について学んで一年組の番立間傳書

略

ぼくは、生れてすぐに阪神淡大震災があった。  
 たがらせんせんせんなにも覚えていませんでした。  
 お母さんがろさいたときのことなんだけど  
 すごい大きなゆれで上のかべがおちてきて  
 そのときお母さんに助けろれたとききました。  
 もしもぼくがお父さんの近くでゐていたらなら  
 死んでいたときがさねました。それは、お父さ  
 んがゐっていたからだと言っていました。その話  
 を聞いたときはびくつきしたけれどお母さん  
 に助けろれたことは感謝しています。

あの地震があつたことはかなしいけど少し  
 うれしいことでもあります。それは今、みんな  
 といっしょにいたりマニヨンがたくさんた  
 ったことです。もしも、あの震災があつて  
 いなければ、マニヨンがたりたり今いる友  
 達とも会えなかつたと思ひました。  
 これからは、地震にそなえておくことが大  
 切だと思ひます。いずれ生きている間にまた  
 大きな地震がいつかは、必ずくるからです。  
 これからは必ずしなきがいけなしいと思ひます。

災害について学んで

ぼくは、阪神淡路大震災ほどの大きな地震

は、もうおきないだろうと、思っていました。

けれど、またビックリするようないことを、

きいたのが、スゴトラの地震でした。阪神淡路

大震災は震度7度で10秒ぐらいいだっただけです

またトラは震度6度で10分も揺れていたなんて

びっくりしました。とくに津波が二十メートル

も三メートルもあつたといふのが、こわい

なです。お父さんからもきいたことが、三

十メートルもある津波は、このくらいで、階

まで

とどくといって、いました。たしかに津波が三

十メートルもあるのは、たまたまの出来事みたい

な気がしますが、あんなに思いました。

今日、由緒津波が来たときの防犯訓練がある

から、はざといらと、きのためのしっか

りか、ておきたいと思います。